

| 第2回 横浜市栄区民文化センター指定管理者選定評価委員会 会議録 |  |
|----------------------------------|--|
| 開催日時                             | 令和3年8月2日(月) 午前10時～11時30分   |
| 開催場所                             | 栄区役所新館4階 8・9号会議室   |
| 出席者                              | 吉永崇史委員長、小華和紘記委員、高田久美子委員、中野恵子委員(計4名)  |
| 欠席者                              | 立木正子委員   |
| 開催形態                             | 公開、ただし議事3、5及び4の委員の採点及び意見交換部分については非公開(傍聴者5人)  |
| 議題                               | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 会議の公開・非公開について</li> <li>2 選定方法の確認</li> <li>3 応募資格等の確認及び財務状況の報告</li> <li>4 面接審査</li> <li>5 指定候補者の選定</li> </ol>  |
| 決定事項                             | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 議題2及び4の応募団体によるプレゼンテーション部分は公開とし、議題3、5及び議題4応募団体の面接審査における委員の採点及び意見交換部分について非公開とした。</li> <li>2 「神奈川共立・JSS共同事業体」を横浜市栄区民文化センターの指定候補者とした。</li> <li>3 委員会の選定結果について、栄区長に報告することとした。</li> </ol>   |
| 審議内容                             | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 会議の公開・非公開について<br/>審査の公平性を担保するため、選定方法の確認及び応募団体の面接審査におけるプレゼンテーション部分は公開とし、応募資格及び財務状況、応募団体の面接審査における採点及び意見交換部分、指定候補者の選定については非公開とした。</li> <li>2 選定方法の確認<br/>事務局より採点方法、最低基準点及び選定方法についての説明を行った。</li> <li>3 応募資格等の確認及び財務状況の報告<br/>事務局より、応募のあった団体が当公募の欠格事項に該当しないことを報告した。<br/>立木委員欠席のため、立木委員作成の資料に基づき、事務局より応募のあった団体の財務状況について報告をした。</li> <li>4 面接審査<br/>神奈川共立・JSS共同事業体によるプレゼンテーションが行われ、以下のような質疑応答があった。<br/><br/>(委員) 現在コロナ禍ではあるが、今後インバウンド需要に対しどのような考えなのか、聞きたい。<br/><br/>(回答) 「神奈川県立地球市民かながわプラザ」(あーすぷらざ)と協働し、海外からの方を、例えば「本郷ふじやま公園」の古民家で行う古典的なイベントに誘導する、といったようなことを考えている。</li> </ol> |

(委員) 栄区には隠れた観光資源がいっぱいあると思うが。

(回答) 地域で価値のある活動をしている団体、より栄区のことを詳しくご存じの方々ともっともっと連携したいと考えている。もっと地域活動と連携することで、魅力的な資源を発見し、発信したいと考えている。

(委員) 地域コーディネーターとして館長が役割を果たすとのことだが、具体的に地域でどのような取組を考えているか聞きたい。

(回答) 地域コーディネーターとしてあらためて何かをするというよりは、広げていく、と考えている。具体的には、地区センター、コミュニティハウス、小学校といったところで講演をやっていたが、これからは地域の方に主催していただいてやっていくことを考えている。また、栄区の障害者支援の担当者とも連携して行っていきたい。

(委員) 男女共同参画の観点から、市外含めて女性の館長がいらっしゃるか聞きたい。

(回答) 女性の館長については現在残念ながらいない。今後整備されていく施設に関しては積極的に登用していきたい。

(委員) 館長の役割の変化について、今回積極的に提案いただいたが、館長の役割として、地域コーディネーターとしての役割、もうひとつはマネジメントの役割、2つがあると理解している。果たして兼任可能なのか。マネジメントが大変になると地域コーディネーターの役割がおろそかになるのではないかという懸念がある。館長自身のワークライフバランスをどう考えているか。どう業務を両立していくのか、方針を聞きたい。

(回答) 館長の役割は、マネジメント業務、地域コーディネーター業務、の大きく2つの業務がある。全体のマネジメントについては、共同事業体の各社の本部機能が強力にバックアップを行う。館長は本部と連携しマネジメントについては本部の力を使いながら行っていく。館長はどちらかというと現場の施設と地域に目を向けつつ業務を行っていく。

共同事業体各社本部のバックアップのもと、地域コーディネーターの業務に励んでいきたいと考えている。

(委員) 実際に業務を進めている現館長からも意見をうかがいたい。

(回答) 第4期から地域コーディネーターという名前が明確に位置付けられたという認識。かといって今まで何もやっていなかったかということではない。基本的には各団体とつながっていくきっかけづくりの役割を館長が担う。団体とつながったあと色々なことを事業化していく際には、私たちの事業担当が事業に落とし込んでいく。ですので、地域コー

ディネーターとして最初につないでいく、きっかけづくりをするのが館長の役割。そういった観点からいうと大きく今までと変わらないため、マネジメントとあわせて行っていけると考えている。

(委員)「地域コーディネーターの役割をやる」ということと、「地域の方から地域コーディネーターとして認知される」ということには大きな違いがある。後者になるととても忙しくなる。その点について、館長の名刺に「地域コーディネーター」と書いてほしい。どのように実効性ある取組ができるかどうか引き続き検討していただきたい。

(委員) ICT 関係について総合的に質問させてほしい。ICT に長けた人材を登用する、また SNS の発信に力を入れているということだが、実際に現在、どのくらい進んでいるか、どのような課題があって、どの程度やっていたかなければいけないのか、そのためにはどのような人材が必要なのか、また、デジタルマーケティングや SNS をどのように周知していくのかについて見解を教えてほしい。

(回答) まず、SNS については、一昨年から LINE を使っている。情報の発信が中心だが、そこにチケットの割引を織り交ぜたり等は始めている。

また、インターネットでチケットを買える状態になるよう、事業の発券の仕組みをシステムをお借りしてクラウド上で運営をはじめている。そこでの支払いはクレジットカード、キャリア、QR コードの決済を想定している。

さらに、非接触で入場するために、チケットは QR コードで発券できるよう進めている。

加えて、貸館の支払いもクレジットカード、キャリア、QR コードの決済ができるよう、文化庁からの助成金で6か月間試す方法で進めていく。

人材については現在も SNS に長けたメンバーが数名いるのでそのメンバーで運営している。今後採用する人材についてもそのような役割が果たせる人材が必要と考えている。

情報発信については Facebook、LINE、youtube ですで行っているが、第4期については定着させるというのが重要だと考えている。

(委員) 情報発信の話だが、年間を通じて様々なイベントを発信している。チラシにも海外の方にもわかるよう一言でも英文を入れるべき。

(回答) 確かにこれまでリリースで作った紙媒体に英文を入れるのは限定的になっていた。ご指摘いただいたので検討していきたい。

(委員) LINE は数値目標があったが、youtube では品質のいいコンテンツを発信しているにも関わらず再生回数がなかなか伸びていない。そのあたりの定量目標をどのようにしていくのかも含めて検討していただきたい。

5 指定候補者の指定

プレゼンテーション及び面接審査を受けて評価を行い、各委員の評価結果が以下の通りとなった。

| 施設名          | 団体名               | 評点／満点       |
|--------------|-------------------|-------------|
| 横浜市栄区民文化センター | 神奈川共立・J S S 共同事業体 | 727 点／880 点 |

採点の結果、最低基準点（480 点）を超えていることを確認した。

「神奈川共立・J S S 共同事業体」を横浜市栄区民文化センターの指定候補者とすることを決定した。

また、選定結果については栄区長に報告することとした。

配布資料

- 1 選定の流れ
- 2 評価・採点について
- 3 選定スケジュール